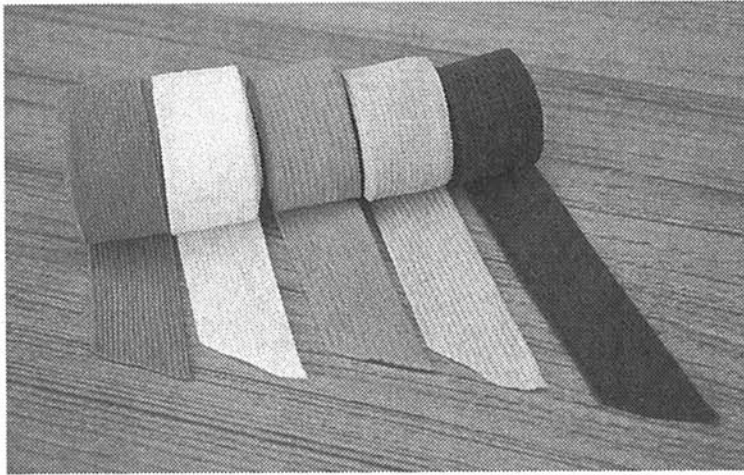


伸縮性自着テープ拡販



多色化で拡販体制に進める「Qシーラー」

多色化 実現 五輪向けなど用途開拓

茶久染色

機能性染色などを手がける茶久染色(本社一宮市開明、今枝憲彦社長、電話0586・45・2345)は、伸縮性自着テープの用途開拓を強化する。このほど業界では難しいとされてきた多色化を実現。業者向けの展示会などで提案しており、異業種企業と連携して付加価値の高い新商品を開発し、同テープの拡販につなげたい考え。

(一宮・水谷英志)

「Qシーラー」(商品名)は、2009年に独自開発。ポリエステルなどの化繊を使用し、吸水および水の加工にも対応している。最大の特長は、繊維同士のみが接合する点。接着剤や止め金具なしで使用できるほか、はさみなどを用いず手で切断できる。このことから現在、電気製品のコードを束ねる結束バンドなどへの用途を提案している。

ただ、これまで性能は注目されるものの、カラーが白色のみということが課題の一つとなっていた。そのため利用拡大に向けて同テープの多色化を検討してきた。多色化にあたっては加工時の温度設定と塗料の選定が難しく、「実現には構想から2年かかった」(今枝社長)という。

現在11色をラインアップに置く。「オリンピックカラーもすべて用意した」(同社営業部)とし、2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに合わせた提案にも期待を寄せる。価格は幅2・5センチ、長さ3メートルのタイプが420円(消費税込)。

同社では、技術力を示す製品としてPRを強めている方針で、2月に行われた展示商談会「総合展『THE尾州』」などでも提案。今後、ネット販売のほか、他社と連携した多目的な商品開発を積極的に進めることで拡販していく。

同社は1916年創業。抗菌防臭加工や、保湿効果があるビタミン加工などの特殊加工を手がける。2014年3月期の売上高は12億5千万円。